

「 高め合い 認め合い 楽しく学び合う 小鹿野小学校」

学 校 だ よ り

学校教育目標 ○仲良く力を合わせる子 ○明るく元気な子 ○進んで学習する子
小鹿野町立小鹿野小学校 第2号 平成30年5月1日

4月9日の始業式、入学式から約1か月経過しました。毎日のことで多少の気持ちの波はありますが、全校児童352名が、よい笑顔で登校してくれています。子どもが安心して笑顔で登校してくれることは、とてもうれしいことです。その笑顔に応えられるよう全教職員で力を尽くし指導・支援を行っていかなくてはと改めて感じた1か月でした。

～「豊かな心」「学力の向上」をめざして～

平成30年度、小鹿野町教育委員会の大きな重点施策に「学力の向上(主体的な学び)」「豊かな心の育成」が掲げられています。児童一人一人に生きる力を育てていくためには、この2つはとても大切な要素になります。

先月号でもお知らせしたように本校のめざす学校像は「高め合い 認め合い 楽しく学び合う小鹿野小学校」です。「高め合い 認め合い」に欠かせないのが豊かな心です。「学力の向上」でも、それを入れていく器(心)の存在が重要だと私は考えています。順序として、まず「心ありき」だと思っています。今月は心の育みについて、皆様と考えてみたいと思います。

まず、豊かな心の必要性についてです。心は目には見えない存在であるので、漠然とした答えになってしまうかもしれません。なぜ必要か。「心が豊かになることで80年・90年と言われるその人の人生が充実したものになる。」ということなのだと思います。(証明は難しいですが。)

心の豊かさには、たくさんの要素があると思います。

- ・他人を思いやる ・自分らしさを大切にする
- ・感動する(すばらしいこと、楽しいこと、悲しいこと)
- ・何事も全力で行う ・誠実さ ・謙虚さ ・良さを認める 等々



これらはどの様に身につけられるのでしょうか。教室で、「人に優しくする、他人を思いやることは大切です。」と話したから簡単に身につくというものではありません。人間は人間と環境に接して生きています。その中で周囲の人の姿を見て、出来事を経験して「よりよく生きていくためには、こうあるべきだ。」逆に「こうあるべきでない。」という事を感じ、必要な豊かさを身につけていくのだと思います。

人的な環境として学校で児童に接する教職員の話し方、接し方、身の処し方は重要な環境です。児童の心が育つ環境だということを改めて我々教職員は意識しなければいけません。さらに、心を育むための教室等の物的な環境整備にも努めて参りたいと思います。

普段学校で、子どもたちは校内で私の姿を見つけると、「校長先生。」と元気に呼んでくれたり、手を振ってくれたり、時には近くに寄ってきて話をしてくれたりします。担任のように毎日、接したり、勉強を教えたりしていない私に優しく接してくれます。とてもうれしく感じる瞬間です。「子どもの心は素直だな。優しいな。」と感じると共に、この時を逃さず豊かな心を育てていくことの大切さも感じています。

こうして、子どもは自分の身の周り全てから影響を受けて学び、常識と言われるものや道徳心といわれるものを自分の中に獲得していくのだと思います。子どもの身の回りの環境や大人の役割はとても重要です。

最後に1つお願いがあります。豊かな心が育っていく土壌として「愛情あふれた温かい家庭」は不可欠になります。学校、家庭の相互作用によって子どもたちを育てていきましょう。よろしくお願ひいたします

小鹿野町の「自学ノート」の取組が始まりました。主体的学習な学習になりますよう、ご家庭での「認め・励まし」をお願いします。(現在、違うノートを使用している児童は次のノートから小鹿野町のノートに切り替えます。学校での認め等の扱いは町のノートと同じにいたします。)

(校長 矢 鳥 泰)